

アスペルガーの職場支援

～職場の援助者のために～



NPO法人東京都自閉症協会50周年記念事業実行委員会 編集

目 次

□ 観察、そして発想の転換	4
□ 協働はリトマス試験紙	8
□ ミスについて	12
□ 試行錯誤でよい	16
□ そのことばは励まされようか	20
□ 自分を語れることの大切さ	24
□ 聞き方の要点	28
□ 適職とは何か	32
□ 就労継続—職業人としての能力向上	36
□ 周囲との関係構築こそ支援	40
◆ 時間経過の感覚	44
◆ 感覚過敏と鈍麻	46
◆ 暇な時間をどう過ごすか	47
◆ ADHD（注意欠如・多動性）の場合	48
◆ 職場の社員援助者のための配慮	49
◆ 雇用のための10の要点	51

れたかを、なるべく具体的に本人に返している。本人は決して、ほめてほしいということではないようだ。むしろ、自分がやったことを確認したいように思われる。

なぜ協働作業なのか？

こういう経験から、わたしは、その当事者の特性を知るためには、集団の中でまず自分の直接指示で何かを手伝ってもらうことがよいと考えている。なぜ協働作業なのだろうか。協働作業は他人との役割分担を意識しなければならないからだ。チームの一員として役割を果たすときに、その人の特性は鮮明に出る。そして、協働作業では、他人との調整を自立的に行わなければならない。自分が仕事を依頼すれば、期待していることに対してどこまでしてもらえたかが分かるので、本人特性を把握しやすい。

結婚披露宴や上司も入った職場の会食など、他人への気遣いが必要とされる場面で特徴が浮き彫りになることも多い。上司が箸をつけずに残した刺身を、「それください」と言ってもらいに行く人もいた（なお、このような行為は、きちんと正せば、まず、その後はしなくなる）。協働作業で本人の特性が見えやすくなるというのは、アスペルガー症候群だけではなく、定型の人と同じである。

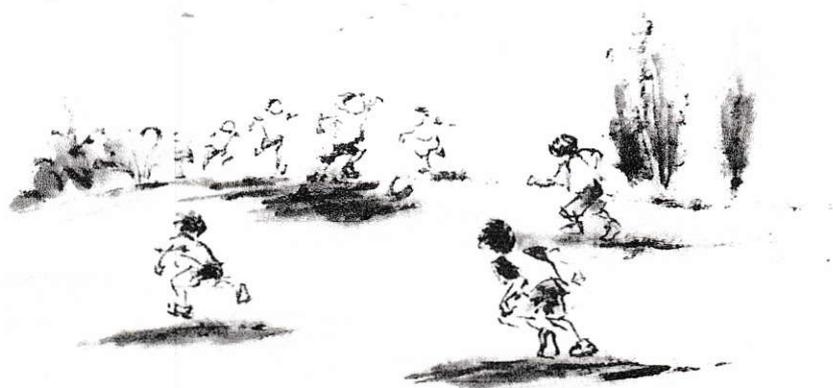
自分を発見する機会

家庭生活では、仕事で現れる不得手なことに気づきにくい。親は子どもを過大評価してしまう。無意識に本人の特性を前提として和を保っているからだ。親友とはうまくやれる当事者は多い。親友は違いを許容するが、仕事は人を選ぶ。

当事者にとっても、実は、自己の特性を知る機会には仕事で他人

とやりとりをする場面ではなかろうか。仕事をするようになって初めて、自分について「あれっ、こんなはずではない」と気づく人が多い。勉強という個人的な作業だけでは、自分のいろいろな特性は見えないのかもしれない。勉強ができる当事者ほど、社会に出て初めて自分の実像を目の当たりにして、落ち込んだり、うろたえたりする。

受験には役立たないのかもしれないが、学校でも地域でも、協働作業の機会を増やしてあげてほしい。学校での放課後の掃除も特徴理解のよい機会であろう。まじめにしていたかどうかではなく、当番仲間とどういう相互調整をしているかだ。長い目で見れば、そこで得られた経験や体験が、その後の社会生活の大きな栄養になる。ただし、競争的すぎないこと。自主的で、本人にとってやる気を起こすものであることが前提だ。



◇ 雇用にあたっての10の要点

—まとめにかえて—

1. この障害の人の人生を応援できそうな同僚と上司が職場にいること
2. 本人が信頼を寄せる支援者と連絡がとれること（支援職でなくてもよい、社外でもよい）
3. 初期の仕事には、他との折衝・交渉・調整という妥協点を見いだすような要素を避けること
4. 音、光、匂い、室温、視線など感覚上の困りごとを言われた場合には、無視せず、できるだけ配慮すること
5. 通勤も含め、疲労に気配りすること
6. 会議への出席は、他の社員と同等に扱い、仲間はずれにしないこと。発言を無理強いしないこと。出席していた場合であっても、会議で決まったことは明瞭に伝えること
7. 職場懇親会への誘いは、他の社員と同等に扱い、仲間はずれにしないこと（ただし、参加を無理強いしないこと。淡泊に）
8. 精神論的な集団主義は期待通りにならないことを知っておくこと（本人にとって、不快感・拒否感になる場合も多い）
9. 職場内に、本人に意地悪をしたり、悪い評判を流す社員が増えないように予防すること（障害名の周知は逆効果となることがある。苦手なこと、得意なことを理解してもらうこと）
10. 欠点の矯正よりも、良い成果の評価を優先すること

◇ 学校生活10の要点

— チームの一員として —

1. その人の人生を応援できそうな級友や先生がいること
2. 本人が信頼を寄せる支援者と連絡がとれること(学外でもよい)
3. 音、光、匂い、室温、視線など感覚上の困りごとを言われた場合には、無視せず、できるだけ配慮すること
4. 通学も含め、疲労に気配りすること
5. 初期には、他との折衝・交渉・調整という妥協点を見いだすような役割を優先しないこと
6. グループの話し合いへ出席は、他の生徒と同等に扱い、仲間はずれにしないこと。発言を無理強いしないこと。参加していた場合であっても、決まったことを別途確認しておくこと
7. クラスコンパへの誘いは、他の生徒と同等に扱い、仲間はずれにしないこと(ただし、参加を無理強いしないこと。淡泊に)
8. 精神論的な集団主義は期待通りにならないことを知っておくこと(本人にとって、不快感・拒否感になる場合も多い)
9. 本人をからかったり、悪い評判を流す生徒や先生が増えないように予防すること(障害名ではなく、苦手なこと、得意なことを説明する)
10. 欠点の矯正よりも、良い成果の評価を優先すること

冊子「アスペルガーの職場支援」の「雇用にあたっての10の要点」を学校用に修正